

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500048		
法人名	医療法人 五紀会		
事業所名	グループホーム白鳥台 すずらん		
所在地	室蘭市白鳥台5丁目20番10号		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さまの身体状況の変化について、毎日 看護スタッフ・介護スタッフが連携して詳細に把握出来る体制をとっている。母体病院と隣接しており、病院の外來部門とも入居者さまの体調の変化についてタイムリーに相談・対応が出来る施設環境である。母体病院で対応できない専門科については、母体病院の相談室の協力があり、家族とともに他院受診の道筋へつなげている。入居者さまに精神的・身体的な目立った変化がある時は、すみやかにご家族さまに連絡を行い、状況の報告・その対処についての確認をおこなっている。このように当ホームでは、入居者さまの健康管理を第一に考え、あわせて、皆さまがストレスなく穏やかにお過ごし頂けるようにアットホームな雰囲気作りにも努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0193500048&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年3月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は同一法人の協力病院に隣接しており、緊急時には24時間対応可能な態勢となっている。週6日勤務の看護職員を配置し、介護職員と連携して日常の健康管理や状態変化に注意深く目配りしている。他科受診についても協力病院の相談員が随時相談に応じるなど、医療面で利用者、家族の安心を支えている。運営者、管理者は職員の研修機会を積極的にバックアップし、さらなるサービスの質の向上を目指している。遅出職員が午後9時まで勤務し、夜間の対応にも十分な配慮がなされている。管理者、職員、家族、関係医療機関が連携しながら、「個人の尊重、生きがいの成就、ご家族・地域交流づくり」という理念に沿ったサービス提供に取り組む事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念シートを作成し、スタッフに配布している。スタッフは、入居者様の健康と尊厳の維持を第一に、入居者様及びご家族様と接している。	「個人の尊重」「生きがいの成就」「家族・地域交流づくり」という事業所独自の理念を作成し、全職員が理念シートを所持して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の学校祭等の催しに参加。姉妹施設であるケアハウスと夏祭りの共同開催や、母体病院とともに健康教室を開催し、地域交流の場となっている。	近隣小学校の学習発表会に参加したり、法人の夏祭りには地域住民とともに参加している。近隣のデイサービス「おたがいサロン」の利用者に事業所訪問を呼びかけるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	室蘭市介護予防教室「えみなメイト」利用者様の施設見学、述べ40名を受け、グループホーム及び認知症についての理解の場を提供。近隣施設との交流会による施設開放をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催。その都度、施設の運営状況や外部評価等の報告を行っている。避難訓練では、ご家族からの意見もあり、その後の訓練時には改善対応している。	会議は家族、町内会役員、地域包括職員を構成員とし、2ヶ月毎に開催されている。運営状況や評価への取り組みについて報告・意見交換を行い、家族から出された意見をケアに活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	室蘭市GH連絡会の席にて市担当との情報交流を行っている。室蘭市介護予防教室とは、積極的な付き合いをしている。	市のグループホーム連絡会に参加し、管理者同士の情報交換はしているが、市担当者の出席は極めて少ない。	室蘭市グループホーム連絡会の事務局として、連絡会への行政の出席を呼びかけ、より一層行政との協働を図る予定であり、実現に期待したい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束実施ケースはない。法人全体で、「身体拘束ゼロ」の理念を共有し、ケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束についての正しい知識を有するよう努め、言葉遣い、接遇の仕方に十分配慮して、身体拘束のないケアを実践している。夜間の施錠は、利用者本人の役割としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とみられるような言動については、スタッフの相互牽制による防止体制がとれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人研修の際に制度についてレクチャーしている。又、新規入居のご家族との面談の際には、ご家族への説明と同時にスタッフを同席させて、個々人の生活背景と権利擁護制度のかかわりについての話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居当時者の意向を最重要視している。その上で十分な説明を行い理解を頂いた上での契約としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見聴取や、施設内でのコンサート行事等の前後などに交流会として家族交流の場を提供している。出された要望は、可能な限り取り入れている。玄関入口に、ご家族用の投書葉書きを設置している。	運営推進会議や行事の際の家族交流会、面会時やアンケート等で、家族からの意見・要望の聴取に努めている。出された要望は運営やケアプランに具体的に取り入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで業務改善の意見等は提起される職場環境であり、連絡ノートでの意思の疎通もはかられている。	管理者は申し送りやミーティングで、直接職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員がヒヤリハット状況や提案を連絡ノートに書き込み、職員間で共有してケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部と協議し、出来る限りの職場環境整備をしている。勤務時間、シフトについては個々の家庭状況を踏まえた対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員行動チェック表などを指標としてスタッフに個々人に合わせたアドバイスをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭市GH連絡会主催の研修会やその他の勉強会に参加の機会を出来るだけ提供している。近隣施設との交流、同一法人内の他部署への実習交流等を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には必ずご本人に施設見学をして頂き、当ホームの雰囲気を感じて頂き、ご本人の意向を最重要視している。ご本人の事理弁識能力の中で、当ホームへの入居希望を確認している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の生活背景を出来るだけ把握するように努め、ご家族の要望や不安を拝聴し、これに対して当ホームがお約束できるサービス内容をお伝えし、ご本人様を中心とした信頼関係構築につなげている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの力量の範囲で出来る限りの対応をし、不足部分については、他の介護医療サービス機関との連携により対処している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の尊厳を尊び、年長者への敬う気持ちを常に持つようにスタッフは努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、連絡を密にしており、身体状況変化等の際には、受診等でご家族に協力して対応して頂くことを当ホームからもお願いをしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人の方の面会は頻繁にあり、入居者様の外出・外泊や受診、美容室などへの外出も出来るだけご家族同伴をご家族にお願い、啓発している。	家族や友人の訪問は頻回にあり、気持ちよく訪問してもらえる雰囲気作りに配慮している。馴染みの美容院利用や懐かしい場所への外出を家族の協力を得ながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握して、座席を変えたり、外出時のメンバーを調整したりして日々穏やかな生活を過ごされるように支援をしている。			

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良で入院された方の面会は機会がある毎に行っている。ご退去されたご家族からもお便りを頂くなどのお付き合いをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のお話を傾聴し、その時々のご本人の精神的、身体的な不安、要望を理解するように努め、その都度スタッフ、ナースが対応。場面によっては、管理者、施設長が対応している。	日々、利用者のお話を傾聴し、自己決定に沿った暮らしを支援するよう努めている。意思疎通が困難な場合には、表情から汲み取って利用者本位のケアを提供している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	とくに入居者様が体調を崩された時には、ご家族と多くのお話しをする機会として、積極的にご本人様についての会話をし、一層の家族関係、生活背景の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活状況が、スタッフ間の申し送り伝達ですみやかに行われるように記録書類を工夫し、かつ、口頭でも情報共有を行っている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護スタッフ、計画作成者、管理者がお一人お一人について精神的、身体的状況の変化を細やかな視点でチェックを行っている。必要に応じて看護師が医師への意見聴取を行い計画を作成している。	毎月のモニタリング、個別記録を基に、家族、看護師、医師の意見を取り入れた個別の介護計画を、職員全員で相談しながら作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化が見られた場合は細かく記録をし、介護職間・介護⇄看護職間での情報の共有に努め介護計画の見直しを行い、日々の実践に繋げている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を前提として、必要に応じて他の介護サービス機関の協力も仰いで本人の生活の充実に努めている。(外出、他院受診など)	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する母体法人の病院や他の部署の協力、近隣歯科医院の往診協力をいただいている。派出所(警察)、消防署には緊急時協力を得られる体制をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、定期診療機関は、ご本人、ご家族の意向を尊重し、決定している。他医院との連携は計画作成者が積極的な構築を図って行っている。	利用者の希望する医療機関に受診できるよう家族の協力を得ながら支援している。協力医療機関への受診送迎は職員が行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフと看護スタッフ間での入居者様にかかわる申し送りを日々行い、医師(受診)や家族への伝達もすみやかにかつ適正に行えるような体制づくりを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、施設長、管理者または計画作成者が出来る限りご家族に同行している。その際に病院関係者との連絡調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医院での定期受診の状況報告を家族から伺い身体状況の変化については家族との情報の共有を行い、重度化された場合には方針について相談・協議をしている。	重度化した場合や看取りについて、看取り指針を基に、契約時に説明している。状況変化に応じて主治医、職員、家族と相談を重ね、方針を共有しながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応カードを作成し、救急時には速やかに対応ができるようにしている。発熱・不穏が数日間継続している入居者様がいる時は随時介護スタッフ、看護スタッフが協力して応急対応についての打ち合わせ、準備を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(うち1回は、夜間想定)の避難訓練を行っている。他施設の避難訓練にも参加し、当施設の訓練に改善点を組み入れている。	年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。11月には同法人のケアハウスとの合同訓練を行い、避難経路の確認をしている。町内会の見学・参加も得られるようになってきている。	次回訓練時には、消防からの指導や助言を得る予定であり、実現に期待したい。また、近隣住民の役割分担を明確化し、連携強化への取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に年配者に対して失礼のないように努めている。一人一人のプライバシーにも配慮に努め適宜に対応している。	日ごろから利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない接遇に努めている。新規職員は法人研修を受け、失礼のない対応を習得している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お顔の表情や体調の変化を察知して、ご本人の求めていることをスタッフが早目に理解し、ご本人が出来ることはおまかせして自己決定を働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご気分や身体状況に合わせて、一日の日程(起床、食事、入浴)はその日のご本人のペースに合わせて組み立てをして、お過ごしいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、ご本人のお好きな服を選んでいただくようにしている。外出時には、出来るだけオシャレな装いでお出かけしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやモヤシのひげとりなどのお手伝いをして頂いたり、食後のお膳下げや食器拭きをして頂きながら、入居者様相互やスタッフと会話を楽しんでいる。	利用者の力量に応じて、準備や後片付けを行っている。利用者の好みを行事食に反映したり、食べやすい形態にも配慮して、食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がメニュー構成を行い、カロリーバランスがとれた食事を提供している。各位の身体状況を病院の定期受診時に医師に伝達し、食事摂取量のコントロールを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外出後のうがいの励行と食後の歯磨きの働きかけをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄・水分チェック表を活用し、トイレの間隔を確認している。食事、外出前にはトイレ誘導し、失禁時もしりげなく交換するように声がけをしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや時間誘導により、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各位の体調に合わせて水分量を調整して提供している。根菜類の多いメニューやフルーツ(おやつ)の提供に心掛けている。糖尿病や水分量に制限のない方には、ご家族から好きな飲み物の差し入れ(ヨーグルト・果物)等の協力を頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各位がゆったりと入浴をお楽しみいただけるようにスタッフが適宜に入浴時間をとり、入浴時に個々の皮膚状態(湿疹等)についてスタッフが個々の入浴時に声がけし、確認を行っている。	入浴は週2回を基本とし、希望の時間にゆったりと楽しめるように支援している。現在希望者はいないが、夜間帯での入浴も可能な人員配置となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその日の気分や体調にあわせて居室での休息をうながしたり、こまかい配慮を行っている。趣味の書き物やお好きなテレビ番組はご自身の居室でくつろいで見られ過ごされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護スタッフ、看護スタッフと外来看護師、医師が連携して個々の身体状況にあった服薬となるようにしている。服薬のアイテム、内容について、変更時は情報がすみやか正確に伝えるようにファイル等の資料整理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事のお手伝いをすることで張り合いや、トランプや花札等のグループでの楽しみ、個々でぬり絵や物づくりなどを静かに楽しむ等、個々の能力・希望に合わせた配慮をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近隣で無理ない距離で散歩にお誘いしている。おやつのお買い出し等も機会をみて同行している。外出、外泊は積極的にご家族と出かけて楽しんでいただくように、ご家族には声掛けをしている。温泉宿泊外出、美容室へのお出かけ、通院帰りのご家族との夕食などを楽しませている。	気候の良い時期には、散歩や花摘み、買い物に出かけている。事業所全体の行事外出では、花見と隣接する法人主催の夏祭りに出かけている。家族と温泉や、通院帰りの夕食を楽しむ利用者もいる。	利用者の外出は受診、リハビリが主となっている。事業所としても新たな行事外出を検討しているところである。地域ボランティアの協力を得るなどして、利用者の外出機会の増加を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院の売店へ気軽に出かけられる環境であり各位のおこづかいでお買い物を楽しませている。お孫様等の面会時や盆・正月には直接ご本人様からおこづかいを手渡し喜ばれる顔を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏になられた場合には、ご家族と電話で話をさせていただいている。遠方のご家族からの電話をとりつぐことも多く、携帯電話にて自由にご家族と連絡が出来る方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは窓が大きく、採光が過度にならないように随時、お声掛けをしカーテンで調整をしている。その他の照明についても、入居者様に声掛けをして光量に気配りをしている。季節に合わせた草花を室内に飾り、その季節に入居様手作りの品々で装飾をしている。	共用空間には季節感のある装飾を施したり、花鉢を飾っている。壁面には鮮やかな花の写真や行事の写真をかけている。不快な音や臭いもなく、開放感のある居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時間以外は、ご本人の意向におまかせしたところでお過ごしされている。気の合う方同士で席を近くに過ごされることが多いようです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、以前からお使いの家具などを持参されているソファやテレビ・ゲームなど個人の好みの物を持ち込まれてくつろがれている。ご家族の写真や、手紙などを置かれている。	使い慣れた家具や、大切な家族の写真等を自由に持ち込み、安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台、浴室、手すり等は、理学療法士等の意見を聴き高齢者に使いやすい工夫をしている。トイレ、浴室のプレートにも「わかる」ような工夫をしている。		